

デジタルカメラに「著作権情報」が記録可能に! 写真家の強い要望によりデジタル一眼レフカメラに実装!

著作権委員会

これまで写真を貸し出す際には、プリント裏面やマウントに著作者名、連絡先などを明示するスタンプを捺印することにより無断使用などの著作権侵害を未然に防止する一定の効果があった。写真のデジタル化が急速に進む中でデジタルカメラの画像ファイルに「著作権情報」を記録し表示することのできる新たな仕組みが求められていた。JPS著作権委員会では、2005年よりExif情報に著作権情報を記録できるように調査研究を続け、各カメラメーカーへ働きかけてきた。2008年7月の(株)ニコンに続き同年11月にはキヤノン(株)の主力デジタル一眼レフカメラにこの機能が搭載されるに至った。ニコンはカメラ側から直接、キヤノンはソフトウェアを介してカメラ側に情報を入力するというアプローチの違いはあるが、写真家にとっては撮影と同時に著作権情報を画像ファイルに記録できるようになったことの意義は極めて大きい。また、Exif情報は日本国内で標準化された規格だが、事実上の世界規格であることも重要である。著作者名の表示について啓発活動を続けてきた当協会が、デジタル写真の時代においても「著作権侵害の抑止力の一つとして非常に有効な仕組み」の実装に深くかかわったことの意味は極めて大きい。

持ち物には名札を付けよう!

著作権委員会内でExif情報について調査研究が始まったのは2005年にまでさかのぼる。同年2月に開催された「デジタル社会と写真著作権の展望」と題する著作権研究会で講師の藤城一朗会員から、ニコンのデジタル一眼レフカメラに搭載されたコメント内に撮影情報を書き込むことのできる機能について言及したことが発端。そもそもの発想は「自分の持ち物には名札を付けよう」ということであり、銀塩写真プリントの裏面に著作者名のスタンプを押すことと同様であった。コメント内に撮影者名や会社名を記録できるニコンの仕組みは元来、新聞社からの要望で搭載されるようになったという経緯があり、藤城会員は「JPSが著作権情報の規格化を関係団体へ願うことも重要な役割だと感じている」と述べている。

実際に搭載されるに至った経緯

藤城会員の提言を受け、当協会の著作権委員会内にExif情報検討部会が発足し、第一歩はExif規格で策定されたコメント情報をニコンが積極的に利用し撮影者名や会社名を記録できるようにしていた仕組みを発展させて業界標準の規格とすることだった。部会メンバーが非公式にカメラメーカー担当者へ打診することからスタートした。カメラメーカーとしてのニコン一社の仕組みを発展させた形とはいえ、業界標準の規格とすることへの反応は芳しいものではなかった。並行して2006年2月、Exifの標準化活動を行っている団体CIPAへも統一規格の検討を働きかけたが、「会員(カメラメーカー)から提案していただくのが自然」との回答であったため、いち早くExifのコメント機能として「所有者情報」を搭載した一眼レフカメラを発売していたニコンを通じてCIPAへ提言を行ったのだが、それぞれの考え方に温度差のあるメーカーすべてをまとめる作業は難航し、CIPA内での統一化作業は一時中断した。

そんな中、当初から部会メンバーであった和田靖夫委員がExif規格書を再度精査する中、すでに著作権情報はArtist, Creator等として規格済みであったことが判明した。そもそもExif情報はJEIDA(現JEITA)によって標準化されているデジタルカメラ用の画像ファイルの規格であるが、撮影日時、メーカー名、カメラ名、シャッタースピード等々の撮影時の情報が撮影と同時に画像ファイルに記録される規格である。著作権情報も規格化されていたものの、このタグ情報を記録可能としているカメラは皆無の状態だった。

それを受けて当部会では新たな統一規格を策定することから、「規格化されているが使用されていない著作権情報」を記録可能にするよう各カメラメーカーに要望することへと方向転換し、JPS理事会にも提言し実際にカメラメーカーへも働き始めていた。その中で、あるカメラメーカー担当者から「日本写真家協会だけではなく、他の団体からも働きかけがあれば写真界全体の大きな声としてとらえることができるため、メーカーとしても動きやすくなる」とのアドバイスを受け、2007年9月、有限責任中間法人日本写真著作権協会(以下JPCA)から各カメラメーカーへ働きかけるよう提言したのである。

JPCAでの決定を経て同年10月より、同協会加盟10団体連名で「デジタルカメラ画像データ情報への著作権者情報使用のお願い」とする文書を送付すると同時に、実際にカメラメーカー各社へ赴き「お願い行脚」がはじまった。当然JPCAの名の下であるが、実質的にはJPS著作権委員会を中心にしたメーカー訪問であった。

有用性や問題点

そもそもExifは画像データに付随して記録される単純な付加的なデータであり、たとえ著作権情報等が記録されたファイルであっても撮影後の編集によって改ざんできてしまうという大きな欠点がある。さらに、部会でも把握していた問題点ではあったが、他人の名前で偽装して登録した場合や、著作者(撮影者)情報をリセットせずに中古市場で販売された場合、さらには他の著作者情報の入ったカメラを借り

